

1. 背景・目的

秋季のツキノワグマは冬眠に備えて食欲旺盛な時期となり、餌資源を求めて活発に活動する。山林内の堅果類等の餌資源量が少ない場合は、食べ物を求めて長い距離を移動することが知られており、このことが大量出没の一因といわれている。本調査は、秋季におけるツキノワグマの主な餌資源である堅果類等の豊凶状況を調査することで、行政等の迅速な対応と被害を回避するための注意喚起を目的に実施した。

2. 調査方法

調査対象樹種はブナ、ミズナラ、コナラ、シバグリ、アラカシ、スダジイおよびシラカシの堅果類7種とクマノミズキとウワミズザクラの液果類2種で、ウワミズザクラは5～6月に、その他の種は8～9月に調査を行った。20 kmメッシュごとに生育している調査対象樹種からそれぞれ調査木を3本選定し、目視により果実数を調査した。

3. 結果と考察

島根県の豊凶の状況は、ミズナラとクマノミズキが凶作で、それ以外の調査樹種は豊作であった。島根県・広島県・山口県を合わせた西中国山地の豊凶状況は、ミズナラとクマノミズキが凶作、コナラが並作であり、それ以外の樹種は豊作であった。堅果類は概ね実りが良いため、10月以降の出没数が極端に増加しないと予想される。ただし、西中国地域におけるツキノワグマの主要な餌資源と考えられるコナラは、一部の地域では凶作であり、赤い凶作のメッシュとその周囲では出没数が増加する可能性がある。

【注意事項】

秋季は、登山やキャンプ、紅葉狩りなど行楽のシーズンです。ツキノワグマに出会わないために、次のことを心掛けてください。

【人間の存在をツキノワグマに知らせる】

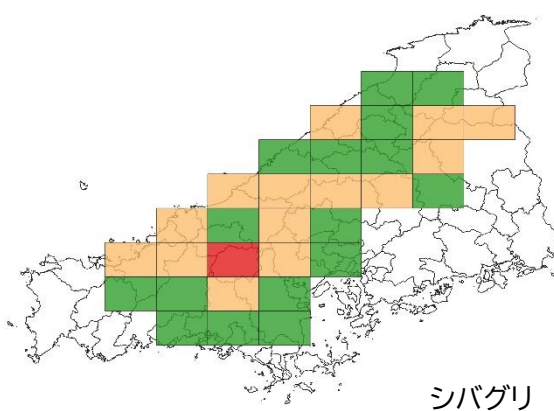
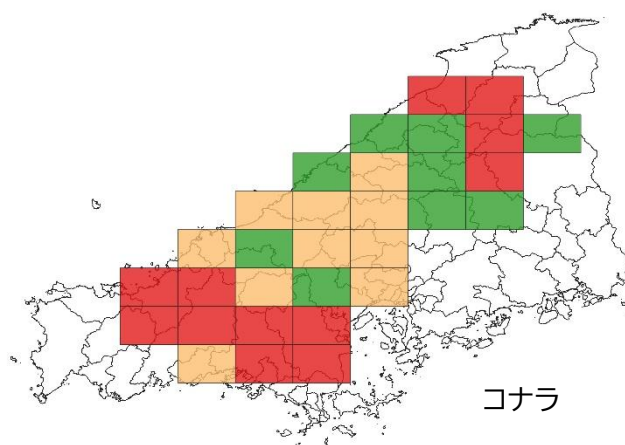
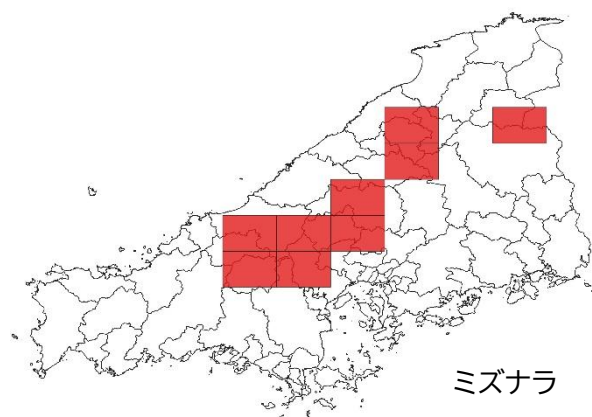
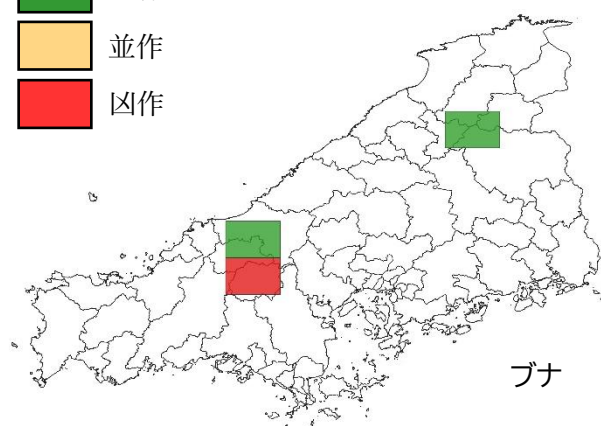
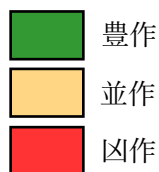
- ツキノワグマは、音やにおいに敏感です。人より先に人間の接近を知れば、ほとんどのツキノワグマは逃げていきます。
- クマ鈴やラジオなど音の出るものを身につけ、人間の存在をツキノワグマに知らせましょう。
（注：鈴は大きい音のものであれば、一般のもので構いません。）
- 天気の悪い日や、川のまわりでは、音や風向きで、ツキノワグマも人に気づきにくくなります。
- キノコ採りなどは、周囲への注意力が低下するので、とくに気をつけましょう。
- 先が見えない登山道のカーブは積極的に音を鳴らし、見通しの悪い場所には近づかないようにしましょう。
- 早朝や夕暮れ時はツキノワグマの行動する時間と重なります。外出の際は、特に気をつけ、音の出るものを必ず身に付けましょう。

【ツキノワグマを引き寄せないために】

- 生ゴミは放置したり、畑などに捨てないようにしましょう。
- カキやクリなどの実は、できるだけ早く収穫しましょう。(収穫しない放置果樹は誘引物になる可能性が高いので、可能であれば伐採するようにしましょう。)
- 家の周辺の蜂の巣は撤去しましょう。
- 養蜂施設は、設置場所に注意し、電気牧柵を必ず設置しましょう。
- キャンプや登山、溪流釣りで出たゴミは、必ず持ち帰りましょう。

表1 西中国三県における堅果類等の豊凶基準に基づく評価

	ブナ	ミズナラ	コナラ	シバグリ	アラカン	スダジイ	シラカシ	クマシズキ	ウミザザク
島根県	豊	凶	豊	豊	豊	豊	豊	凶	豊
広島県	調査なし	凶	豊	豊	並	調査なし	豊	並	豊
山口県	調査なし	調査なし	凶	豊	豊	並	調査なし	凶	豊
西中国平均	豊	凶	並	豊	豊	豊	豊	凶	豊



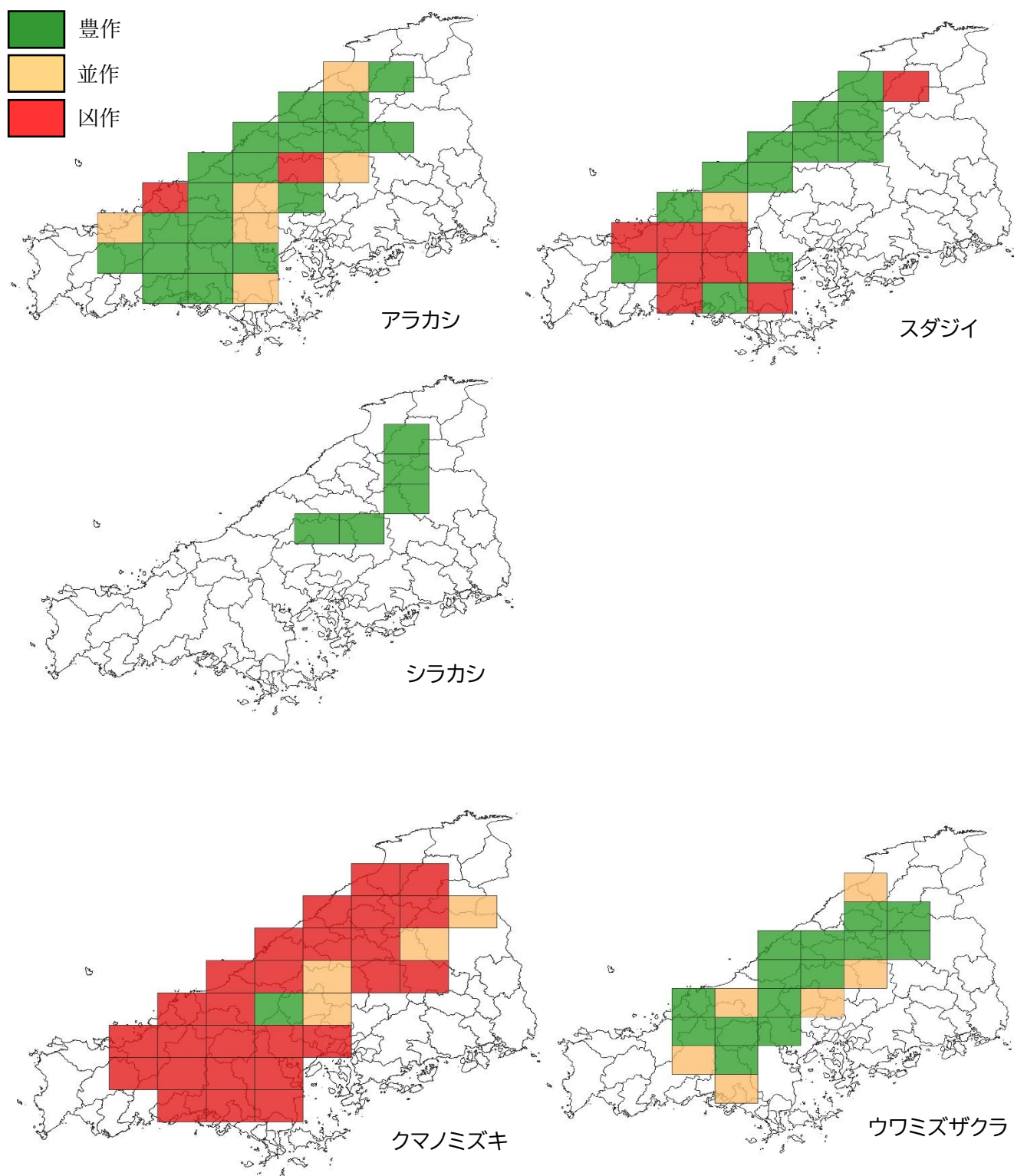


図1 西中国地域における 20 kmメッシュごとの各樹種の豊凶状況